

教員紹介

NAME 氏名 職階
研究内容
『主な著書』(発行所 発行年)
『論文』(『収録誌』 発行所 発行年)

哲学歴史学科 / 哲学歴史学専攻

哲学コース / 哲学専修

Takashi NAKAHARA 仲原 孝 教授
宗教学。宗教哲学。カント・ニーチェ・ハイデガーを中心とする近現代ドイツ哲学の研究。
『ハイデガーの根本洞察』(昭和堂 2008)

Tomohiro TAKANASHI 高梨 友宏 教授
ドイツ近現代美学、近代日本の芸術論。
『西洋近現代美学の一概観』(加國尚志・平尾昌弘 編著『哲学の眺望』見洋書房 2009)

Takashi TSUCHIYA 土屋 貴志 准教授
倫理学、医療倫理学、人権問題研究。
共著『『医学的無益性』の生命倫理』(山代印刷出版部 2016)

Takeshi SAKON 佐金 武 講師
英語圏のいわゆる分析哲学の文脈において、現代時間論および関連する形而上学の諸問題を中心に研究。
『時間にとって十全なこの世界——現在主義の哲学とその可能性』(勁草書房 2015)

日本史コース / 日本史学専修

Takashi TSUKADA 塚田 孝 教授
日本近世史。特に近世身分制の研究、大坂の都市社会史や和泉をフィールドとした地域史。
『都市社会史の視点と構想』(清文堂出版 2015)
『大坂の非人—乞食・四天王寺・転びキリタン』(ちくま新書 2013)

Hiroshi NIKI 仁木 宏 教授
日本中世史。都市史、地域社会史。現在はとりわけ、室町〜織田・豊臣期の、全国の港町、城下町に興味をもって研究している。
『京都の都市共同体と権力』(思文閣出版 2010)
共編著『信長の城下町』(高志書院 2008)

Naofumi KISHIMOTO 岸本 直文 教授
日本考古学。古墳時代の研究。現在は、古墳時代から飛鳥時代への社会変容について、特に 7 世紀中頃の古墳の大規模な築造による古墳の築造規制の実態から追究している。
編著『史跡で読む日本史 2 古墳の時代』(吉川弘文館 2010)

Ashita SAGA 佐賀 朝 教授
日本近現代史、特に近代大阪の都市社会史・地域社会史、近年は近世の遊廓社会史も。
『近代大阪の都市社会構造』(日本経済評論社 2007)

Toru IWASHITA 磐下 徹 准教授
郡司制度の研究、古記録の註釈、大阪の古代史。
『日本古代の郡司と天皇』(吉川弘文館 2016)

世界史コース / 東洋史学専修

Shigeki HIRATA 平田 茂樹 教授
中国の近世史。科挙・官僚制を中心とする政治構造の歴史。
『宋代政治構造研究』(汲古書院 2012)
『宋代政治構造研究』(上海古籍出版社 2010)

Chikayoshi NOMURA 野村 親義 准教授
近現代インド史。
『Selling steel in the 1920s: TISCO in a period of transition』(The Indian Economic and Social History Review, Delhi, vol.48-1, 2011)

Masayuki UENO 上野 雅由樹 准教授
西アジア近世・近代史、オスマン帝国史。
共著『世界史/いま、ここから』(山川出版社 2017)

世界史コース / 西洋史学専修

Syunji OGURO 大黒 俊二 教授
中世・ルネサンス期のイタリアおよび地中海世界の社会史、経済史。
『声と文字』(岩波書店 2010)
『嘘と貪欲—西欧中世の商業・商人観』(名古屋大学出版会 2006)

Masafumi KITAMURA 北村 昌史 教授
近現代ヨーロッパ、特にドイツの社会史。
『ドイツ統一と第二帝国』(小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦 編著『大学で学ぶ西洋史(近現代)』ミネルヴァ書房 2011)

Hisatsugu KUSABU 草生 久嗣 准教授
ビザンツ史、ヨーロッパ中世史、宗教問題史、異端学。
共著『北西ユーラシアの歴史空間——前近代ロシアと周辺世界』(北海道大学出版会 2016)

人間行動学科 / 人間行動学専攻

社会学コース / 社会学専修

Yuzo SHINDO 進藤 雄三 教授
理論社会学・医療社会学・家族社会学を専攻。現在の主な研究テーマは現代社会理論・医療専門職論・死の社会学研究。
共著『社会学』(医学書院 2012)

Saeko ISHITA 石田 佐恵子 教授
メディア文化研究、映像社会学。
共編著『ポピュラー文化ミュージアム』(ミネルヴァ書房 2013)
共編著『ポスト韓流のメディア社会学』(ミネルヴァ書房 2007)

Noriko IJICHI 伊地知 紀子 教授
朝鮮地域研究、文化人類学。
IJICHI, Noriko, Atsufumi KATO, and Ryoko SAKURADA eds, *Rethinking Representations of Asian Women: Changes, Continuity, and Everyday Life*. New York: Palgrave, 2015.
『消されたマッコリ。—朝鮮・家醸酒文化を今に受け継ぐ』(社会評論社 2015)
『日本人学者が見た清州人の生—生活世界の創造と実践』(清州大学校歌謡文化研究所 2013 韓国語)

Eiji KAWANO 川野 英二 教授
社会政策の社会学・比較社会学。
セルジュ・ボーガム『貧困の基本形態—社会的紐帯の社会学』(中條健志と共訳) 新泉社 2016
『フランス大都市の配置構造と「郊外」の位置: リオン市郊外と中心市街地の変容』(『人文研究』大阪大学 2017)
『フランス郊外貧困地区とスティグマ化』(『貧困研究』明石書店, 2016)

Hideaki SASAJIMA 笹島 秀晃 講師
都市社会学、文化社会学。
『ニューヨーク市 SoHo 地区における芸術家街を契機としたジェントリフィケーション: 1965 ~ 1971 年における画廊の集積過程に着目して』(『社会学評論』67(1), 2016)

心理学コース / 心理学専修

Tomoko IKEGAMI 池上 知子 教授
社会心理学: 対人認知、偏見とステレオタイプ、社会的アイデンティティと社会システムの関係。
『格差と序列の心理学—平等主義のパラドクス—』(ミネルヴァ書房 2012)

Hiroshi YAMA 山 祐嗣 教授
認知心理学: 推論、思考の潜在性・顕在性、比較文化研究。
『日本人は論理的に考えることが本当に苦手なのか』(新曜社 2015)

Koichi KAWABE 川邊 光一 准教授
生理心理学: 高次認知機能(特に学習・記憶)の脳内機構。精神疾患動物モデルに関する行動薬理学的研究。
『Effects of chronic forced-swim stress on behavioral properties in rats with neonatal repeated MK-801 treatment』(Pharmacology, Biochemistry and Behavior, in press)

Daisuke SAEKI 佐伯 大輔 准教授
行動分析学: 判断、意思決定、選択、推論。
『価値割引の心理学—動物行動から経済現象まで』(昭和堂 2011)

教育学コース / 教育学専修

Atsushi KASHIWAGI 柏木 敦 教授
日本教育史、初等教育制度政策史。
『日本近代就学慣行成立史研究』(学文社 2012)

Haruo SOEDA 添田 晴雄 准教授
比較教育文化史、教育・学習における話すことと聞くことの研究、特別活動、いじめ問題の国際比較。
共訳『進歩主義教育の終焉—イングランドの教師はいかに授業づくりの自由を失ったか—』(知泉書館 2013)
共編『世界のいじめ』(金子書房 1998)

Hisayoshi MORI 森 久佳 准教授
教育学(教育方法論、カリキュラム論、教師論)。
共編『こどもと関わる』(アーツ・ソリューションズ 2013)
共著『教師の仕事と求められる力量』(あいら出版 2011)

Nozomi SHIMADA 島田 希 准教授
教育方法学、授業研究。
『学校における実践研究の発展要因の構造に関するモデルの開発——専門的な学習共同体』の発展に関する知見を参照して——』(『日本教育工学会論文誌』日本教育工学会, 39(3), 2015)

地理学コース / 地理学専修

Shigeaki OBA 大場 茂明 教授
都市政策とまちづくり、ドイツ地域研究。
『再都市化の進行にともなう地区居住施策の展開—ハンブルク大都市圏を事例として—』(『日本都市学会年報』, 日本都市学会, Vol.53 2017)

Toshio MIZUUCHI 水内 俊雄 教授(兼任)
近代都市の社会問題・住宅問題の歴史的研究や、日本・東アジア、欧米の脱ホームレス支援や都市再生に関わる社会地理学的研究。
編著『都市の包容力』(法律文化社 2017)
共著『モダン都市の系譜』(ナカニシヤ出版 2008)
※(兼任) 大阪市立大学都市研究プラザ教授

Takashi YAMAZAKI 山崎 孝史 教授
グローバルな政治経済の変動とローカルな政治・社会運動に関する地理学的研究、沖縄研究。
『政治・空間・場所——政治の地理学』にむけて[改訂版]』(ナカニシヤ出版 2013)

Ryoji SODA 祖田 亮次 教授
人文地理学、人口移動、資源利用・管理、災害文化、東南アジア地域研究。
People on the move: rural-urban interactions in Sarawak. (Kyoto University Press and Trans Pacific Press, 2007)

Yoshinari KIMURA 木村 義成 准教授
地理情報システム、保健医療分野におけるGISの応用研究。
『Geodemographics profiling of influenza A and B virus infections in community neighborhoods in Japan』(Yoshinari Kimura, et al, BMC Infectious Diseases, 11:36, 2011)

言語文化学科 / 言語文化学専攻

国語国文学コース / 国語国文学専修

Tetsuya NIWA 丹羽 哲也 教授
日本語の意味と文法。普段使っている言葉がどのような仕組みでできているか、それが過去から現代までいかに変化してきたかという研究。
『日本語の題目文』(和泉書院 2006)

Naoki KOBAYASHI 小林 直樹 教授
中世の説話伝承文学。とりわけ現在では、通世僧の文学世界を中心に研究を進めている。
『中世説話集とその基盤』(和泉書院 2004)

Hiroaki KUBORI 久堀 裕朗 教授
近世文学、おもに人形浄瑠璃史の研究。
共編著『上方文化講座 義経千本桜』(和泉書院 2013)
共編著『上方文化講座 菅原伝授手習鑑』(和泉書院 2009)

Kumiko OKUNO 奥野 久美子 准教授
芥川龍之介など大正時代の小説。特に大衆演芸からの影響について。
『芥川作品の方法』(和泉書院 2009)

Mayuko YAMAMOTO 山本 真由子 講師
中古文学、おもに漢文学・和歌の研究。
『三条左大臣殿前裁歌合について—「進水虫の宴」の趣向—』(『文学史研究』57号 2017)

中国語中国文学コース / 中国語中国文学専修

Tsuneo MATSUURA 松浦 恒雄 教授
19世紀末以降の中国近現代文学、および演劇。
共編『帝国主義と文学』(研文出版 2010)

Mari IWAMOTO 岩本 真理 教授
近世から現代にいたる中国の語彙・語法の変遷。唐話資料にみる近世中国語の日本における定着と変容。
『南山俗語考』(中国書店 2017)

Shinmin CHO 張 新民 教授
現代中国文化論及び映画研究。
共著『中国映画のみかた』(大修館書店 2010)

Koji IWAMOTO 大岩本 幸次 准教授
中国語音韻史、中国古代字書史。
『皇極經世解詠歌』(『聲音韻譜』校異記) (臨川書局 2011)
『金代字書の研究』(東北大学出版会 2007)

英米言語文化コース / 英米言語文学専修

Masashi SUGII 杉井 正史 教授
英国エリザベス朝演劇、特にシェイクスピアの劇。
共著『シェイクスピア—古典文学と対話する劇作家』(松籟社 2014)

Takanobu TANAKA 田中 孝信 教授
文学テキストと大衆メディアとの関係の研究。
Dickens in Japan: Bicentenary Essays (Osaka Kyokyo Tocho, 2013, coauthorship)

Ian RICHARDS イアン・リチャーズ 准教授
New Zealand literature.
『Do-It-Yourself History: A commentary on Maurice Shadbolt's "Ben's Land"』(Lonely Arts Publishing, Auckland 2011)

Tetsuo KOGA 古賀 哲男 准教授
アメリカ文学(黒人詩研究)。
『大衆詩における独創とはなにか——『豹と鞭』におけるヒューズの編集意識——』(『黒人研究』82 2013)

Junichi TOYOTA 豊田 純一 准教授
認知科学、歴史言語学、文化人類学。
Vision beyond visual perception. (Newcastle upon Tyne, Cambridge Scholars Publishing, 2017)

ドイツ語フランス語圏言語文化コース / ドイツ語フランス語圏言語文化学専修

ドイツ語圏言語文化領域

Michio KAMITAKE 神竹 道士 教授
言語学、ドイツ語学、ドイツ語文法理論。特に16世紀以降の標準ドイツ語形成過程を研究。
教科書(単著)『ドイツ文法ベーシック3 改訂版』(朝日出版社 2016)
教科書(共著)『楽しいドイツ語の旅—ベア練習で学ぶ初級ドイツ語—』(朝日出版社 2017)

Kinoku TAKAI 高井 絹子 准教授
19世紀末以降のドイツ語圏文学・文化。
『インゲボルク・パッハマンとウィーン—観念的な地図の書き換えをめぐる—』(『人文研究』大阪市立大学 2014)

Kenichi HASEGAWA 長谷川 健一 講師
18・19世紀のドイツ語圏の文化・文学。
共著『ドナウ河—流域の文学と文化—』(見洋書房 2011)

フランス語圏言語文化領域

Yoshiyuki FUKUSHIMA 福島 祥行 教授
ひとどのように通じあうのかの研究。相互行為分析、コミュニケーション論、言語学習(アクティヴラーニング、ポートフォリオ)、言語学、都市とアート、コミュニティ開発、フランス語圏学。
『グループワークにおけるふりかえりの生成—フランス語初級クラスの相互行為分析から—』(『Revue Japonaise de Didactique du Français』11, vol.1-2, 日本フランス語教育学会 2016)

Yuki SHIRATA 白田 由樹 准教授
19世紀末フランス・ベルギーの文化、ジェンダー表象の研究。
『サラ・ベルナル—メディアと虚構のミューズ—』(大阪公立大学共同出版会 2009)

Yoko HARANO 原野 葉子 准教授
20世紀フランス文学・文化。戦争、実験文学、空想科学。
編訳『夢がもしもいなくなった技術』(ボリス・ヴィアック著 水声社 2014)
共訳『文体練習』(レーモン・クノー著 水声社 2012)

言語応用コース / 言語応用学専修

Shigeki SEKI 関 茂樹 教授
統語論、語用論。英語などの言語に見られる形式と意味との対応関係の機能的観点からの研究。
『英語指定文の構造と意味』(開拓社 2011)

Yukio IKARI 井狩 幸男 教授
母語獲得メカニズムの解明に向けた神経心理言語学と第2言語習得への応用。
『バイリンガリズム入門』(山本雅代 編著 井狩幸男・田浦秀幸・難波和彦 著 大修館書店 2014)

Masato YAMAZAKI 山崎 雅人 教授
言語基礎論、言語比較論。言葉の仕組みをさまざまな面から論じる。
『満洲語文語の可能表現に見る文文化の展開』(『言語情報学』第13号 2017)

Kazuhiko TANAKA 田中 一彦 教授
英語における特殊な過去完了形の用法について、willはテンスかモダリティか。
『過去完了形の使用を保証するオリエンテーション・タイム』(『言語情報学』第8号 2012)

表現文化コース / 表現文化学専修

Masako MIKAMI 三上 雅子 教授
現代演劇研究。
『恋する男と行動する女—宝塚歌劇における男性像—』(『表現文化』No.6 大阪市立大学大学院文学研究科表現文化学教室 2011)

Noriyuki NOZUE 野末 紀之 教授
19世紀末イギリスの文学および文化思想。
『「ジョルジョーネ派」の批評言語』(『ペイター』ルネサンスの美学』論創社 2012)

Akihiro ODANAKA 小田中 章浩 教授
フランス演劇、比較演劇、分野横断的な表象(たとは虚構としての記憶喪失)の研究。
『モダンドラマの冒険』(和泉書院 2014)
『フィクションの中の記憶喪失』(世界思想社 2013)

Yoko TAKASHIMA 高島 葉子 准教授
民間話話・民間伝承の比較文化的研究。
『Successful Marriages between Kamuy and Humans in Ainu Folktales: A Comparison with Animal-Human Marriages in Northern Peoples' Tales』(Comparative Culture, No.124, 2016)

Takeshi EBINE 海老根 剛 准教授
表象文化論。
『「映画都市」としてのマドリッド——アルモドバルの初期作品における都市表象をめぐる——』(『表現文化』No.9 大阪市立大学大学院文学研究科表現文化学教室 2015)

アジア都市文化学専攻

Mitsuhiko NOZAKI 野崎 充彦 教授
韓国伝統文化論(思想・宗教・文学)、映像文化。
訳書『韓国映画史』(明石書店 2016)
『洪吉童伝』(平凡社 東洋文庫 2010)
共著『韓国の古典小説』(ベリかん社 2008)

Hiroshi TAWADA 多和田 裕司 教授
アジア諸地域の文化人類学的研究、現代社会におけるイスラーム。
共編著『イスラーム社会における世俗化、世俗主義、政教関係』(上智大学アジア文化研究所 2013)
『マレー・イスラームの人類学』(ナカニシヤ出版 2005)

Mayumi SUGAWARA 菅原 真弓 教授
日本近世近代絵画史、文化資源学。特に複製媒体と社会背景に関する研究。
『浮世絵版画の十九世紀—風景の時間、歴史の空間—』(ブリック、2009)
『評伝月岡芳年 幕末明治の狭間で』(中央公論美術出版、2017 近刊)

Satoshi MASUDA 増田 聡 准教授
ポピュラー音楽研究、都市大衆文化研究、文化所有論(著作権、作者論など)。
『聴衆をつくる——音楽批評の解体文法』(青土社 2006)

Madoka HORI 堀 まどか 准教授
国際日本研究。比較文化。境界者の文学から、文学の境界をさぐる。
共著『バイリンガルな日本文学——多言語多文化のあいだ』(三元社 2013)
主著『二重国籍』詩人 野口米次郎』(名古屋大学出版会 2012)

Keita AMANO 天野 景太 准教授
観光学(都市観光論・観光メディア研究・ニューツーリズム論)、都市社会学論。
共著『観光まちづくり』再考』(古今書院 2016)
『東京の社会変動』(中央大学出版部 2015)

—特任教員—

- 表現文化学専修
Kimi EMURA 江村 公 特任講師
- ドイツ語フランス語圏言語文化学専修
Simon OERTLE ジモン・エルト 特任講師
Laurent BAREILLE ロラン・バレイユ 特任講師
- 都市文化研究センター
Yu ISHIKAWA 石川 優 特任助教

(2017年8月現在)